

「京の手技」事業部担当 合場頼正さん
あいばよりませ



合場頼正さん

ニューヨーク展の成功

京都の金属工芸技術の歴史は古く、平安時代の仏像製作に遡ると言われ、その技術は大きく、^{ちゆうきん たんきん} 鑄金、鍛金、^{ちようきん かざり そうきん しっぽう} 彫金、銚金、象嵌、七宝の6つに分かれています。京都金属工芸協同組合は、このような金属を原料とする工芸品製作の職人や作家たちの集まりです。

同組合では組合結成40周年の記念行事として、青年会が主体となり、ニューヨーク市マンハッタン、セントラルパーク近くの日本クラブ1階の日本ギャラリーで『「京の手技 The Te-WaZa」2009ニューヨーク展』を開催しました（平成21（2009）年11月12～25日）。出展したのは、京の手技・新生活工芸品インテリアデザインシリーズをはじめ、茶道具、青銅器、仏具、食器、装身具などの52点で、出展者は約30名。

期間中は、オープニングレセプションに参加したNY在住の企業、美術関係者、日本領事館をはじめ、日本クラブに所属する日本人、いわゆる渡米一世と、その周辺のアメリカ人等、約1000名が来場しました。

同組合にとって海外出展は2回目でしたが、手応えは上々、特に交代で現地に参加した青年会のメンバーにとっては非常に刺激的な体験になったようです。



『京の手技 The Te-WaZa』2009 ニューヨーク展

クリエイティブな発想が必要

「それまで何度か国内でやっていた展示会のなかでは、特に東京の反響がズバ抜けてよかったのです。アークヒルズでやったときはセレブ中のセレブな奥さんたちが集って来て、みなが一様に「京都はすごい」、って思っているのを感じましたね。銀座の小さなギャラリーで和装小物展をやったときは「ここにあるもの、全部くれ」と言われたこともあり」と語るのは今回のニューヨーク展の仕掛け人、「京の手技」事業部担当の合場さんです。

合場さんが海外出展を思いついたのは今から2年前。密かに場所探しを始めていました。「国内では十分、手応え

伝統製品の活用

を感じている。あとは世界への挑戦や、ものをつくる、クリエイティブな発想をするためには常に新しい刺激が必要！……だけど青年会のみんなに相談すると、「大きなことを言うてるけど、お金はどうするねん」と言われました。そのとき、ファンドの協力が得られることが決定したという朗報が入ったのです。一気に「よし、それなら、やろう！」となったわけです。



渡米一世をはじめ多くの来場者で賑わった

後継ぎというプレッシャー

合場さんご自身も、神仏具の手彫り飾り金具、灯籠などを製作する合場金属、分家の第4代目にあたります。

「小さいときからお祖母ちゃんに耳元で「おまえは彫金をやるんやで」とささやかれ続けました。昔の人は教育がうまい。遊びの延長でちょっとやったら「おっ！上手やなあ！」と褒められる。14、5歳頃から家の手伝いでお金が稼げて、得意先からは「後継ぎや」と小遣いがもらえる。褒められ、おだてられて、自然と逃げられないように業界全体で囲い込むシステムになっているのですね。」

青年会は同じような後継ぎたちの集まりで、年齢は一応45歳まで。みな、実の兄弟のように仲が良いと言います。実は金属工芸協同組合自体も元は兄弟弟子など、古くから何らかのつながりがあり、結束がしっかりしています。いい先輩たちが多く、互いに教え合い、助け合っている、と合場さん。

「僕は後継ぎやけど、そんなに器用じゃない。あるとき、組合の大先輩、釜師16代目の大西清右衛門さんに相談したら、「とにかくつなげ」と言われた。僕が天才でなくていいのだと。技術は90か80に落ちてても、できる限りのことを息子の代に基本通り伝えて、子孫で天才の出現を待ちそこまですな。僕達はそういう役割でいいのだと。それを聞いてふっきました。」

新しい技術が生まれては十数年で消えてゆく現代にあって、まさに京都の伝統技術の歴史の長さ、奥の深さを思い知らされる言葉です。



ニューヨーク展出品作品

未来に対する大きな希望

今回のニューヨーク展では、カード決済を想定しておらず、100ドル程度の現金販売のみとなりました。改めて海外はカード社会であることも認識しました。

「ちょうど同じ時期にメトロポリタン美術館では「日本の甲冑展」をやっていて、一本20万～30万円の塚の打ち刃物が飛ぶように売れたらしい。伝統工芸品は日常に使うものではなく、ニッチな市場のニッチな顧客。そこにどう訴えていくか。安くしたら売れるものではないようです。」

今後の展望は、ニューヨークへの再チャレンジ。当面ニューヨーク展を続けていきたい、と合場さんです。

「この業界が衰退していることは間違いありません。ある時期、職人が適当なものをつくりすぎたことも事実。いま多くの職人たちには、本来の技術の伝承と、生活のための生業と二本柱が必要です。今回、僕らがニューヨーク展から得たものは未来に対する大きな希望です。日本は閉塞している。仕事をやめようかと悩んでいる若い職人もいる。でも違う世界を見て、自分のなかの壁を越えられたら。自信がつけば発想が変わると思うのです。」

海を渡った日本の伝統工芸。合場さんたちの挑戦はこれから先もまだまだ続きそうです。

事業概要

京都金属工芸 協同組合

<http://metalcraft.main.jp/>

代表：秦 恒造

業種：金属を原料とする工芸品制作

設立：昭和44（1969）年

住所：〒606-8343

京都市左京区岡崎成勝寺町9-1 京都市勧業館内 kyo オフィス

TEL：075-812-3355 FAX：075-822-1339